

ラテラン教会の献堂 (14.11.9)

「生きた石として霊に満たされた家に築き上げ」

迫害の教会から公認の教会へ

ユダヤ教の三大祭りの一つである「五旬祭」の日、エルサレムにおいてマリアを中心に集まっていた使徒たちの上に聖霊が降り、教会が誕生しました。実に、使徒たちの土台の上に聖霊によって教会という信仰共同体が生まれたのであります。この小さな教会は、着実に成長し、パレスティナからローマ帝国全土に広がっていきました。けれども、遅かれ早かれ教会は、同時に迫害をも体験しなければなりませんでした。ですから、「殉教者の血は、新しいキリスト教徒の種」であるという言葉が、実際に実現したと言えます。

ところで、ローマ皇帝ネロが、教会を迫害した最初の皇帝であったと伝えられています。とにかくローマの歴代の皇帝たちは、キリスト教徒を迫害する政策を続けていました。それでも、キリスト教は、250 年頃には、ローマ帝国内の人口の 5 パーセントから 12 パーセントの間までに増え続けたのであります。

そこで、コンスタンティヌス皇帝の時代になって、彼は、なんと積極的にキリスト教を皇帝権力によって法的にも支援する政策に切り替えたのであります。その結果、313年にはアフリカ属州総督宛て文書で、教会の土地などの免税、寄進の促進、司教への下級裁判権を与えるなど、さまざまな特典を認めるように指示しております。さらに、315年発行の貨幣には、キリストの頭文字による十字架のしるしを打ちました。また、エルサレムにはキリストの墓、処刑されたゴルゴタの丘、さらに生誕地ベツレヘムには次々と教会が建てられました。一方、ローマにおいては、長方形のバジリカ風建築様式が好まれ、サン・ピエトロ、本日記念するラテラン教会などが献堂されたのであります。

皇帝コンスタンティヌスによってラテラン教会が建てられたのは、324年ですが、さらに10 世紀の初めには、福音記者ヨハネと洗礼者ヨハネに捧げられました。そのためラテラン聖ヨハネ教会ともいわれます。後に、18 世紀になつて教皇クレメンス十二世は、この大聖堂に「地上と都市にあるすべての教会の母であり頭である」という銘を与えました。それ以来、11 月 9 日が「ラテラン教会の献堂」の祝日として祝われるようになりました。

わたしたち自身が、霊にみたされた家を築き上げる

では、このように献堂の記念を祝うのは、まさに教会の本来の使命を再確認する日にするためではないでしょうか。ペトロは、意味軸もその手紙のなかで、極めて大切な教会の使命について、次のように大胆にしたためています。

「主は人に捨てられましたが、神によって選ばれた尊い生きた石です。この主に近づいて、あなた方もまた、生きた石として、霊に満たされた家に築きあげられます。それは聖なる祭司となり、イエス・キリストをとおして、神に受け入れられる、霊に生かされたいけにえをささげるためです。・・・

あなた方は、選ばれた民族、王の系統の祭司、聖なる国民、そして神のものとなった民です。それは、暗闇の中からあなた方を驚くべき光に招きいれた方の素晴らしい業を、あなた方が、告げ知らせるためなのです。」（一ペトロ 2.4-9）

わたしたちは、この聖堂でミサをささげるたびごとに、まさにわたしたち自身が霊的な建物となり、主とともに自分自身を永遠のいけにえとして天の御父にささげることによって、偉大な神の救いの御業を、世界に向けて告げ知らせることができるのです。

ちなみに、今日の福音で、イエスは次のような重大な発言をなさっておられます。

「イエスは答えて言われた。『この神殿を壊してみよ。三日で立て直してみせる。』それでユダヤ人たちは、『この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか』と言った。イエスの言われる神殿とは、ご自分の体のことだったのである。」

ですから、教会の建物は、生ける神殿であるイエス・キリストを地域の人々に告げ知らせるための神殿にほかなりません。

また、パウロは、わたしたち自身が神の建物であることを、今日の第二朗読で、次のように強調しています。

「あなたがたは神の建物なのです。わたしは、神からいただいた恵みによって、熟練した建築家のように土台を据えました。」

教会は、使徒たちの土台の上に建てられた霊的な建物なのです。したがって、使徒たちの働きを、全世界のいたるところで、世の終わりまで継続していく尊い使命があります。

全世界に行って、造られたすべてのものに福音を宣べ伝えなさい

ところで、すでに、1980 年代に聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、新たな熱意と、新たな方法や表現によって新たに福音宣教に取り組むよう熱き呼びかけをなさいました。ですから、2012 年 10 月に開催されたシノドス第十三回通常総会のテーマも「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」でした。その成果を、教皇フランシスコは、『使徒的勧告福音の喜び』として発表なさいした。

その中で、教皇は、特に教会の根本的な姿勢転換を強調なさっておられます。「今日、イエスの命じる『行きなさい』というおことばは、教会の宣教のつねに新たにされる現場と挑戦を示しています。皆がこの新しい『出発』に招かれています。」（20 項）「『出向いて行く』教会は、宣教する弟子の共同体です。彼らは、率先する人、かかわり合う人、寄り添う人、実りをもたらす人、そして祝う人です。・・・福音宣教する共同体は、主がまず率先してわたしたちを愛してくださったことを知っています。だからこそ、その共同体は、前進し率先して、出かけて行き、遠くにいる人を捜し出し、疎外されている人を招くために往来の真ん中に立つことができるのです。・・・」（24 項）『出向いて行く』教会とは、門の開かれた教会です。隅に追いやられている人のもとへと出向いて行くことは、やみくもに世界を駆けずり回ることではありません。足を止める、他者に目を注ぎ、耳を傾けるために心配事を脇に置く、道端に倒れたままにされた人に寄り添うために急用を断念する、—そのようにしたほうがよい場合がしばしばあります。」（46 項）と勧告しています。

ですから、わたしたちが、ミサをささげる度毎に、その終わりには、それぞれの家庭、職場、そして地域に派遣されます。それは、福音を伝えるために派遣されるのです。イエスは、^{きょう}今日も、次のように宣言なさいます。

「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選んだのである。わたしがあなたがたを任命したのは、あなた方が出かけていき、実を結び、その実がいつまでも残るためであり、また、あなた方がわたしの名によって 父に願うことは、何でも かなえていただけるようになるためである。あなた方が互いに愛しあうこと、これをわたしはあなた方に命じる。」（ヨハネ 15.16-17）